

1 日 時 令和〇年〇月〇日(〇) 1限

2 対 象 音楽科1年声楽専攻生 11名

3 題材名 「アンサンブルひとり！？～美しいハーモニーを作る力を身につけよう」

4 題材設定の理由

コロナ禍において歌唱の授業ができなくなり、各高等学校ではその他鑑賞や創作など他の教材を中心に授業を行ってきた。しかし、音楽科ではそれぞれの専攻に特化した専門科目があり、声楽専攻生はこれまで大阪府の感染防止マニュアルに沿って安全対策を取りながら工夫をして授業を行ってきた。この工夫の1つが ICT の活用であった。専門学科として求められる独唱技能を高めると同時に、コロナ禍においても多重録音アプリを使用することで、美しいハーモニーを演奏するために必要な知識と技能を身に付ける。

5 題材の目標

高等学校学習指導要領第3章第11節音楽第2款各科目第5声楽 目標(1)～(3)

- (1) 楽曲の表現内容について理解を深めるとともに、創造的に歌唱表現するために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽性豊かな表現について考え、表現意図を明確にもつことができるようにする。
- (3) 音楽性豊かな表現を追求する態度を養う。

- ① 多重録音アプリの使用技術を身につけ、自らの声で多重録音したアンサンブル音源を作成する過程を通じ、美しいハーモニーを作る力として正しい音程・拍・リズムで歌唱できる力、歌唱と同時に他の声部を聴く力を養う。(知識及び技能)
- ② 自らの演奏を客観的に聴いて試行錯誤することにより、美しいハーモニーを形成する音楽的要素に気づき工夫することができる力を培う。(思考力、判断力、表現力等)
- ③ 音楽における ICT の利便性に気づくとともに、生で演奏する音楽との違いを考え、それぞれの良さを知り今後の学習に生かす態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)

6 教材 《ハミングのためのエチュード》信長貴富/作曲

使用機材 iPad または iPhone 無料アプリ「GarageBand」、イヤホンマイク

取り組み内容 自分の声で6声部を全て多重録音し、アンサンブル音源を作成する。

7 教材観

作曲者の信長貴富氏は昨年、コロナ禍においても、なるべく飛沫が少ないハミングで歌えるエチュードとして6声部の練習曲を作曲した。この曲は、混声でも同声でも歌うことができるように工夫されており、男女ともに1人または混声メンバーでも声に負担なく演奏することができる。また《ふるさと》の旋律をベースにしていることから、生徒たちにとって馴染みがある。そして難易度が選べる仕組みとなっている。今回は、音楽科1年生声楽専攻という専門教科のため、最も難易度の高い6声部のアレンジを取り上げた。授業で使用できる教室が狭いため、今回この曲を選んだが、ハミング唱は生徒にとっては喉を締めてしまうこともあるため、自分が歌いやすい母音を選び歌唱した。

8 生徒観

省略

9 指導観

1年生ゆえにアンサンブルの経験が少なく、美しいハーモニーを奏でるために練習過程でどのような試行錯誤すれば良いのかわからない状況である。そのため、①自分が担当するパートの旋律をしっかりと歌唱できること。②美しいハーモニーを作るためには、音程・拍・リズム・音色など音楽を形づくっている要素に分けて考えること。③クラシック音楽でも、ICTを活用することにより稽古が効果的になること、今後も今回学んだことを応用できるように授業展開を工夫した。

あくまでもICT活用自体が目的ではなく、「できるようにになりたいこと」のためにICT機器という手段があると認識する仕組みを大事にした。ゆえに授業初めに仮説を立て、その仮説を立証するような全4時間の大きな取り組みの流れを作った。評価については事前にルーブリックを用いて説明し、題材のねらいと到達目標を明確に共有するようにした。

10 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・多重録音アプリ関する使用法や活用方法について理解している。 ・曲想について理解を深めているとともに、美しいハーモニーを作るために必要な声楽的技能を身に付けている。	音楽に関する専門的な知識や技能を総合的に働かせ、美しい合唱のハーモニーを奏でるため、音楽を形づくっている要素（音程・拍・リズム・旋律や和音など）とそれらの関わりについて考え、音楽の表現を創意工夫している。	多重録音アプリの修正機能を活用し、何度も創意工夫を試み繰り返しよりよい演奏に向けて専門的かつ主体的に学習に取り組もうとしている。

11 指導計画(全4時間)

学習活動	○指導上の留意点 ☆評価	□ICT 活用の意図 ◆情報活用能力の育成
第1時【美しいハーモニーに必要なことは？ 仮説を立てよう】 1 《ハミングのためのエチュード》の演奏を録音する 2 録音音源を聴き、美しいハーモニーを作るための課題を考える 3 アンケート・意見交換 4 改善方法の仮説立て 5 題材の目標を共有 6 多重録音アプリの使用方法を説明	○現状の演奏を録音して客観的に聴き、アンケートで他者の意見を取り入れ課題を考えさせる。 ○他者の声部を認識して歌えば美しいハーモニーになるという仮説を導く。 ○仮説検証方法としてアプリを活用し、コロナ禍で共に歌えない時間に美しいハーモニーを作る力をつける目標を認識させる。	□アンケート集約機能を使い、プロジェクターで瞬時に共有することで、生徒に他者の意見を取り入れつつ自ら課題を考えさせる。 ◆多重録音アプリを活用し、自分だけで合唱音源を作ることで、美しいハーモニーを作るための演奏技術・音楽基礎能力を訓練し高める。
第2時【多重録音アプリを使えるようになる！】 1 ファイル保存・アプリの録音方法など基礎的な使用法を習得する 2 音源を修正する方法を習得する 3 出来上がった作品のうち優秀な作品は披露する 4 評価について共有	○プロジェクターで実演する、巡回するなど効率的に使用方法を伝えられるようにする。 ○生徒が質問しやすい授業の雰囲気づくりや声かけをする。 ☆【知識・技能】多重録音音源(評価資料①) ☆【思・主】アセスメントシート ○具体的活動目標を明確にする。	□プロジェクターで手元の iPad 画面を投影・実演しながら解説する。生徒は個別のタブレットで実際の作業と画面を比較しながら効率的に学ぶことができる。 ◆多重録音アプリを活用する力を習得する。
第3時【自分の声だけで合唱を作ろう】 1 使用方法の復習 2 個室に分かれて多重録音を行う。 3 録音した音源を聴き、繰り返し検証し修正を加える。	○演奏を振り返り、修正することリズム、音程、音色などの音楽を形づけている要素に焦点をあて創意工夫させる。 ☆【思・主】アセスメントシート(評価資料②)	□イヤホンマイクを使用し繰り返し多重録音することで生徒に試行錯誤させ、工夫させる。
第4時【全パートを歌えばハーモニーは美しくなる？ 仮説検証】 1 合唱を録音する 2 アンケート・意見交換 3 優秀録音作品を披露する 4 演奏の比較聴取・まとめ	○課題に取り組む前後の合唱音源をアプリで比較聴取することにより検証効果を高める。 ☆【知・技】音源データ ☆【思・主】アセスメントシート(評価資料③)	□比較聴取時にアプリを活用することで客観性を持って仮説を検証できる。 ◆ICT 機器の利便性を知ったうえで、アナログ演奏の良さも再認識することができる。

12 本時の展開

(1) 本時の目標(第4時)

- ・これまでの多重録音活動を振り返り、音楽を形づくっている要素(音程・拍・リズム・旋律や和音など)に注目して創意工夫を行えば、より美しいハーモニーで演奏できると理解することができる。
- ・課題に取り組む前後の合唱音源を比較聴取することで、1人ずつが全パートを歌えるようになり、声部の動きを理解し他のパートとの関わりを理解して歌えば、ハーモニーを美しくすることができると気づくことができる。
- ・他者の演奏を聴き、音楽を形作っている要素の視点から演奏を分析的に聴くことができる。

(2) 本時の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	アセスメントシートを活用し、音楽に関する専門的な知識や技能を総合的に働かせ、美しい合唱のハーモニーを奏でるため、音楽を形づくっている要素(音程・拍・リズム・旋律や和音など)を認識し、それらの関わりについて考え、音楽の表現を創意工夫している。	多重録音アプリの修正機能を活用し繰り返し創意工夫を試み、よりよい演奏に向けて専門的かつ主体的に学習に取り組もうとしている。

(3) 本時の学習過程(45分):音楽室3

時間	学習内容	生徒の学習活動	・指導上の留意点 ○評価の観点・評価方法
5分	①出欠確認・挨拶	・自分の iPad とイヤホンマイクをとって着席する。	・スムーズな配付を可能とする 事前準備
5分	②本日の授業内容について	・本時の流れと目標について理解する。	
5分	③発声練習と録音前の通し練習	・《ハミングのためのエチュード》を歌唱する。	・歌唱活動時の身体的距離の確保・換気に留意する。
2分	④合唱の録音		
15分	⑤振り返り・Google アンケート	・先ほど演奏した時に、以前と変化した部分があったか。 ・多重録音をすることのできるようになったこと、気づいたことをアンケートで答えたものを即時集約した結果を共有し、意見交換する。	・アンケートを即時集約することで情報を視覚的に共有しやすくする。 ・個別の意見を取り上げることで授業に主体的に参加している実感を持たせる。
5分	⑥優秀作品の聴取	・これまでの活動の振り返りをもとに、優秀作品を聴取する。	
10分	⑦全員の演奏を集約したものを聴く・まとめ	・リモートでアンサンブルは完成できるが、生演奏との違いは何かを考える。(ペアワーク)	・ICT の利便性とアナログ演奏の良さの双方に気づかせる。
5分	⑧アセスメントシートの回収	アセスメントシートを提出する。	○アセスメントシート (思・主)

資料：観点別学習状況の評価」の判断基準の設定

ルーブリックを用いた評価 1～演奏の実技について～【観点：知識・技能】 多重録音でハーモニー力を鍛える

評価資料①【第2時】

	S	A	B	C
各旋律のバランスとフレージング	全ての声部において、それぞれの旋律の持つフレージングに留意し、曲全体において主旋律が浮きだすよう声部のバランスに留意して音楽的に歌っている。	全ての声部において、それぞれの旋律の持つフレージングに留意し、一部主旋律が浮き出して聴こえるよう声部のバランスに留意して音楽的に歌っている。	旋律の持つフレージングに留意し、音楽的に歌っている。	旋律を他の声部と分けて歌うことができる。
ハーモニー	曲の全体が美しいハーモニーを作って安定感を持って演奏している。	一部、ハーモニーが崩れる部分があるが、全体として美しいハーモニーを作ることができている。	曲の半分ほどがハーモニーを美しく演奏できる。	一部分のみハーモニーが美しく決まる部分がある、またはない。
拍子とリズム	混在した拍子に惑わされることなく、それぞれのパートの持つ拍子感を一定に保ちながら正しいリズムで曲の最後まで音楽的に安定して演奏できる。	混在した拍子に惑わされることなく、一定の拍子感で最後まで演奏できる。	混在した拍子に一部揺らぐ部分があるが、曲として大きな拍のズレがなく最後まで演奏できる。	混在した拍子に混乱し、一部曲の拍子感がずれるまたはリズムを誤って演奏している。

日頃の取り組みについての評価【アセスメントシート】

評価資料②【第3時】

日程	①行った作業内容	②録音を聴いて気づいたこと・改善すべき点	③改善の結果	④取り組みについての自己評価
	例：一番下パートを録音した	例：良い所、直したいと思った所、難しかった所など／その理由	例：どのように改善したか、その結果うまくいったかどうか	5・4・3・2・1 すごく頑張った・頑張った・普通・もう少し出来た・サボリ気味

ルーブリックを用いた評価 2【課題に対する取り組みへの評価のポイント】

評価資料③【第3時～第4時】

	評価の観点	S	A	B	C
①	主体的に学習に取り組む態度	試行錯誤の回数が非常に多い改訂を試み、何度も回数を重ねて改善を試みている。	7箇所以上10箇所以内の録り直しや改善を行っており、どのようにすれば美しいハーモニーになるかについて考察している。	1声部につき1箇所以上を目安にした6箇所以上の試行錯誤を行っている。	5箇所以下の記載しかなく、ハーモニーを聴き返したり、課題を自分で考えることをほばしていない。
②	思考・判断・表現	自分の演奏を聴き、客観的かつ的を得た内容で改善すべきポイントを考え出し、改善方法に工夫がある。	自分の演奏を聴き、客観的に改善すべきポイントを考え出し、記載している。	自分の演奏を聴き、客観的に改善するポイントを見つけようとしている。	自分の演奏を振り返らず、最低限の回数で録音し、なんとか課題を仕上げている。
③	思考・判断・表現	改善しようとした取り組みについて実際にやり直し、その結果や成果について検証し、次の取り組みへの改善点を見出し記載している。	改善しようとした取り組みについて実際にやり直し、その結果や成果について整理して書くことができる。	改善しようとした取り組みについて理解し、取り組んだ内容を書くことができている。	改善の結果について、整理やその成果について考えることなく記載している。
④	主体的に学習に取り組む態度	—	—	記載あり（加点）	—
その他	主体的に学習に取り組む態度	—	—	期日までの提出	期日より遅れて提出